

インターネット版

# 白夜

第11号（法人会員特集号）

2024年2月

北海道スウェーデン協会

札幌の冬の寒さも昔ほどには厳しくなくなつた印象があり、さっぽろ雪まつりが終わるころには北国の厳しい冬もその終わりが見えて来る感じがあります。それでも春が待ち遠しいという方も多いかと思いますが、皆様におかれは、いかがお過ごしでしょうか。

前号から暫く間が空いてしまいましたが、新しい「白夜」をお届けします。今回は、最近法人会員として私たちに仲間入りして下さった二つの会社から原稿が寄せられましたので、事務局で執筆したものと併せて、皆様にご覧いただきたいと思います。事務局による文、デラバル株式会社、株式会社スウェーデンハウス両社からの文章の順に掲載していきます。

#### 当協会の事務局アラゼンさん

2020年代に入り、デラバル社、スウェーデンハウス社北海道支社と、スウェーデンと深い関係を有する企業が相次いで当協会の法人会員となつていただいたのは、大変に嬉しいニュースであり、あと5年後に迫った当協会の設立50周年に向けて、現在は当協会の活動の一層の促進が大いに期待できる状況になっていると言えるだろう。しかし、当協会の短からぬ歴史を振り返ってみると、現在当協会の事務局を担当してくれているアラゼンさんの協会に対する多大なる貢献を忘れるわけにはいかない。

筆者の一人（事務局の目黒）は、たとえば当協会の紙媒体の広報誌 Tjena! に同社を紹介するインタビュー記事を提案したこともあるのだが、現在の荒井社長が控えめで遠慮がちな方であつて、常に固辞されてしまっている。ならば、筆者としても感謝の念を伝えるべく、同社の商品を買って・・・、と言いたいところであるが、エンドユーザーを相手とした会社ではないので、それもできない。せめて、ここに同社の紹介をして、日ごろの感謝の気持ちを示したいという思いである。

当協会は1978年11月27日に設立総会が開催されたところから、その歴史を刻み始めた。湊正雄 北海道大学教授（スウェーデン科学アカデミー会員）が会長に就任され、当時、スウェーデン王国名誉総領事館の事務を執られていた医薬品関連会社の秋山愛生館が、設立当初からその事務局を務めることになったのである。

1984年湊先生ご逝去後、秋山愛生館の秋山喜代社長が二代目会長に就任されたが、1996年三代目会長に杉本拓氏が就任する機会に、同年12月24日にアラゼンさんの中に新事務局が発足した。2018年5月28日には加藤誠北大名誉教授が四代目会長に就任されたが、引き続き事務局を担っていただき、今に至っている。

26年の長きに渡って、社員の伊藤さん、赤坂さんが協会の会計事務や外部との連絡業務等を処理してくれてきた。

アラゼンさん（株式会社アラゼン）は、1952年に、荒井善太郎商店からインテリア・内装工事部門として荒善（株）を分離・独立したのが始まりだという。その後、商業施設、オフィス、ホテル、病院、教育機関等の様々な建築物の内装工事を手掛けて、今日に至っている。私たちが普段訪れて使っている建物の内装が実はアラゼンさんの施工だったということは、私たちが知らないだけで、実は少なくない。

世界を襲った新自由主義の嵐もようやく治まり、企業も営利一辺倒から、CSRだのステークホルダー資本主義だの、地域や社会を意識した取組が求められるようになってきているが、そういった声が聞かれるようになるずっと以前から、アラゼンさんは、北海道とスウェーデンの交流を通じた国際交流の推進や、スウェーデンの紹介を通じた北海道の地域の活性化といった地域貢献に取り組んで来られた。

我々筆者としては、ここに限りない感謝の気持ちを表するとともに、今後のアラゼンさんの社業発展を強く願うものである。

（横山、目黒）

## 私たちは、デラバル株式会社です



### 皆様、毎日牛乳や乳製品をどのくらい食べていますか？

白夜読者の皆様、こんにちは。いきなりですが、皆さんはこの質問にどのようにお答えになるのでしょうか。私たちは、スウェーデンに本社を置く「牛乳と深い関係性」にある会社です。今回、弊社についてご紹介の機会を頂きましたのでご一読頂けますと幸いです。

### 日本人と牛乳のお付き合い

皆様は小学校や中学校の給食で何が一番好きなメニューでしたか？毎日毎日提供される給食のお供にそっと添えられる存在、「牛乳」が大好きだった方、今も大好きな方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

あるいは、最近「腸活」という言葉も流行するくらい、健康維持のための機能性ヨーグルトも数多くスーパーのコーナーを賑わせていますね。

そんな牛乳や乳製品、もちろん牛から搾っていることをご存知の方は多いと思います。そこに深い関係があるのが、弊社の事業である「搾乳関連機器」です。

### 酪農家の仕事と搾乳機械

牛の乳搾り、というと牛のお乳を握って人差し指から小指に向かって優しく握るとシャーッと出てくる生乳を想像する方も多いと思います。

しかし、酪農家の皆様は乳を搾る牛を何十頭、あるいは何百頭単位で飼っています。朝・晩の乳搾りは毎日行わなければ、牛が病気になってしまいます。そこで、少しでも酪農家の皆様の負担を減らし、多くの生乳を搾れるような機械を研究・開発・製造・提供しているのがデラバルです。

### ストックホルム近郊のツンバにあるデラバル本社

ストックホルム近郊の町・ツンバに、デラバル本社があります。機械を製造する工場の他、製品企画や研究、管理部門を含めた組織と、自社で運営する牧場「ハムラファーム」を保有している酪農家でもある企業です。このハムラファームには乳牛が約 250 頭おり、牛の乳搾りをさまざまな機械や方法で行い、未来の搾乳機器を模索し続けています。

また、デラバルのロゴを見ると、何やら見たことのあるアルファマークが？デラバルは、テトラパックも属するテトララバルグループの一員でもあります。



### デラバルの歴史と今、そして未来の酪農業

デラバルは、1883年に「グスタフ・デ・ラバル」という人物が、初めて遠心分離クリームセパレーターの特許を取得し、売り出したのがその歴史の始まりです。彼は非常に多くの発明を行って特許を取得し、「可能な限り高品質な生乳生産をし、お客様に酪農の近代的な方法を伝えたい」と考えていました。その遺志は現在でも引き継がれ、世界中の約 100 か所以上の地域で約

4700名の従業員が、革新的な技術を多く持ち合わせた高品質な製品と共に日々、酪農家の皆様を支えています。これはつまり、世界中の人々の食の供給を共に守り続けていることにもつながります。

技術革新の目まぐるしい現代にあっては、弊社もこれまでの経験と技術を集結して開発された「搾乳ロボット」を登場させました。これまでの常識を覆す「搾乳作業自体をロボットが行ってくれる」機械です。このように、酪農業界も進化を遂げています。

#### **デラバルの日本法人であるデラバル株式会社**

デラバル株式会社は、1970年に設立されました。以来、日本の酪農家の皆様へ新しい搾乳機械のご提案やアフターサービスをご提供しています。南北に長い日本の地理的条件から、多様なニーズをお持ちである日本の酪農家の皆様は、牛を大切に扱っている方が多い印象を持ちます。そんな酪農家の皆様のニーズにいかにか私たちがパートナーとして伴走していただけるのか、そういう熱い気持ちを持った約200名の従業員が活躍する会社です。

2020年9月には、本社機能を東京から日本国内最大の酪農地帯である北海道へ移しました。また、2023年3月からは、在札幌スウェーデン名誉領事館としての機能も合わせ持ち、北海道とスウェーデン交流の一役を担う立場ともなりました。

#### **これからも日本の酪農を支えるパートナーとして**

SDGsに代表とされる「持続可能性」は、食料生産においても関心が高まっています。酪農家の皆様が持続的に生乳生産を継続できるように、また、製品と共に価値を提供し続けられるように、デラバルグループ、デラバル株式会社共に邁進してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## **株式会社スウェーデンハウスより**

時の在ストックホルム日本大使が訪れて「ストックホルムの風景に似ている」と感想を漏らしたことが契機となり、当別町に浮上したスウェーデン村計画。それが、後にスウェーデンヒルズとなり、1984年に分譲開始、1985年秋に最初の住民が移り住むこととなります。現在では、約800人の人々が暮らし、その美しい街並みは、単なる住宅地の枠組みを超えて、観光ガイドブックで紹介されることもあるほどです。

発端は、1976年の高度経済成長期。社会の成熟を迎えてもなお日本の住宅は人々の暮らしを豊かにするものではないと日野原重明氏（元聖路加国際病院名誉院長）と当時の（株）トモクの会長である手取貞夫らは感じていました。そこでアメリカや北欧を視察し、その答えとなるヒントを探していた時、堅牢で断熱性能に優れたスウェーデン住宅と出会ったのです。それは、これからの社会に必要な住宅だと確信できるものでした。この住宅技術とともにニュータウン計画「スウェーデン村構想」が生まれ、その構想が当別町にて実現することになったのです。

スウェーデンヒルズの事業開始と同時に1984年に誕生した弊社は、今年で40周年を迎え、今でこそ九州まで全国各地に支社・支店を持ちますが、このように、当初から北海道と密接な関りを持った企業です。

設立当初より、スウェーデン中部レクサンドの工場から送られてくるスウェーデンの木材を生かした部材を使用し、高気密・高断熱のスウェーデン住宅を提供してまいりました。もともとは、スウェーデンの厳しい冬の寒さの中でも快適な暮らしを送ることを目指した高気

密・高断熱住宅ですが、その性能ゆえ、本州以南の夏の厳しい暑さの中でも僅かな冷房で快適に過ごせるという効果をもたらし、全国で好評を博してまいりました。おかげさまで 2024 年には、オリコン顧客満足度総合第一位を 10 年連続で達成しております。



当社の住宅では 50 年間の無料定期検診を実施しており、長きに渡って、良いものを長く使うという持続可能性のある家づくりを実践してまいりましたが、このことは SDGs の考え方の普及もあって、今日ますます意義のあることになっており、その意味でも時代の最先端を行く住宅であると自負しております。

当社は、スウェーデンの住宅の販売を通じて、スウェーデンの知恵や考え方を皆様にお届けしてきました。その観点から、当社ホームページにおいても、スウェーデンにまつわる様々な話題を提供しております(コラム from Sweden - 北欧の暮らし 等)。

北海道スウェーデン協会の会員としても、他の会員の皆様とともに、北海道とスウェーデンの交流の促進に尽力して参りたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### (編集後記)

デラバル、スウェーデンハウスの両社とも、まさに存在それ自体が、スウェーデンと日本の架け橋のような会社だと言っていいでしょう。それゆえ、当協会の活動のさらなる展開にも、きっと大きな力を貸していただけるものと期待しております。また、スウェーデンハウスさんにおかれては、オリコン顧客満足度総合第一位 10 年連続達成の快挙、誠におめでとうございます。

今回は、法人会員各社に原稿をお寄せいただきましたが、これからも広く会員の皆様(実は、会員でなくても、スウェーデンに関係のある原稿であれば大歓迎なのですが)の御寄稿をお待ちしております。

株式会社アラゼン内に置かれた当協会事務局としても、引き続き、協会の活動の促進に努めてまいりますので、どうぞ、よろしく申し上げます。

(事務局)



(上) スウェーデンのデラバル社グローバル本社にあるハムラ牧場  
(下) スウェーデンヒルズ

